

飯伊地区 産業経済動向

No.565 2026/4
(8.5.25 発行)

 **飯田信用金庫**
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：薫風に泳ぐ鯉のぼり。天竜川「水辺の広場」(飯田市座光寺・5月2日撮影)	P 1
製造業 景況DIはプラス圏も前月からは悪化。先行きの不透明感が変わらず	P 2
建設業 4月の公共工事は前年比増加。3月の住宅着工は前年比41%増加	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月からやや改善。中東問題により先行きは悪化を見込む声が多い	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です リニア中央新幹線についての定点観測アンケート(1) ～リニア開業時期の目途が示されることが肝要～	P 6
統計調査から 三遠南信地域における、大学と連携した取り組み事例	P 8
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ(<https://www.iidashinkin.co.jp/>)に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならず、全国で行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

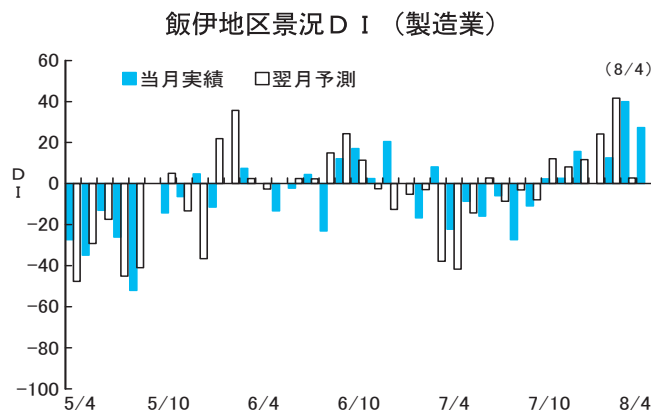
概況 景況DIはプラス圏も前月からは悪化。先行きの不透明感は変わらず

当月の製造業の業況判断指数（DI）プラス27.3で、前月から12.7ポイント低下。翌月予測は0.0で、前月から2.8ポイント低下。当月も、機械製造では景況感好転の声が多く聞かれたが、食品製造ではナフサ不足の影響もあってか景況感悪化の声が複数聞かれ、全体での指数はプラス圏を維持したものの、前月からは悪化した。先行きは、機械製造では好転見込みの声がやや多いが、食品製造では悪化見込みの声がやや多く、全体では好転見込みと悪化見込みが拮抗する結果となった。中東問題により、原材料の値上がりだけでなく、生産活動そのものがストップするおそれもあるとのコメントも聞かれた。

主な業種の動き

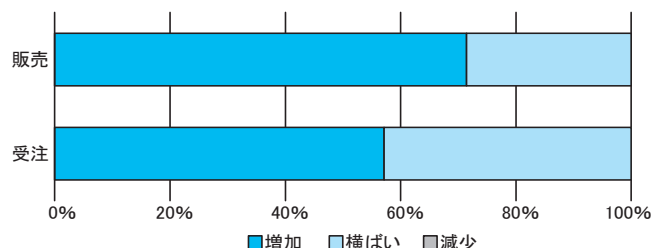
●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注の前月比は、ともに横ばい～増加。先行きについても、販売は横ばい～増加で、減少を見込む声はない。
- ☑景況感…… 当月の景況感は好転の声が多い。先行きは業者により見方が分かれ、好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。



【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



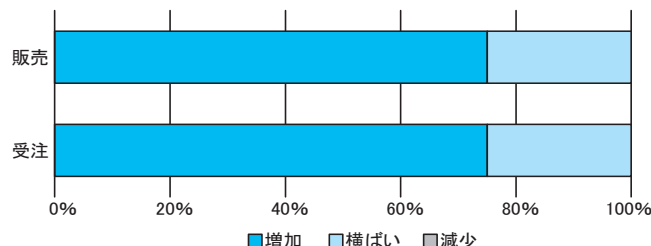
〔企業からのコメント〕

- ・「全体的に受注量が増えてきている。一方で、購入資材の確保が難しくなっている（潤滑油、梱包資材など）。単価も上がっているが、入手そのものが困難である。今後も様々なものが入手できなくなる可能性あり」「受注量にイラン戦争の影響は出てきていないが、ナフサに関連しての値上げが相次いでいる」

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 前月比は販売は横ばい～増加、受注は横ばい～やや増加。販売の先行きは横ばいを見込むという。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～好転で、好転の声が多い。先行きも同様で、こちらは横ばいの声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



〔企業からのコメント〕

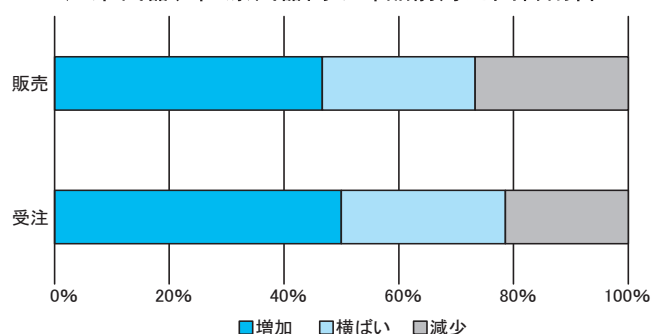
- ・「主要な取引先が、AIサーバー向けの需要の波に乗り繁忙状況となっている。過去最高だった2022年の受注残高よりも大幅に増加して推移しており、需要に対して生産が追いつかない状況。ホルムズ海峡封鎖の影響が出ないと仮定すれば、年度内はこの状況が続くと思われる」「前月からの好調を維持。5～6月も同程度の受注量が継続。その先は不透明ではあるが、既に7月にもある程度の受注が入ってきているため、期待できる」
- ・「半導体製造装置メーカーは、AI向け半導体の爆発的な需要を背景に、記録的な成長局面にある」「取引先から中国顧客の注文が入り始めているとの話があった。このことから、中国が回復傾向にあると思われる」
- ・「4月からアルミ材料、油等の副資材費が高騰。ホルムズ海峡封鎖の影響が出始めており、各部材の価格が高騰し続けている。7月からアルミ材料の極端な値上がりが予想されている」「価格上昇も厳しいが、物が入荷しないことによる生産停止のリスクの方がもっと怖い。半導体が活況のうちに、いち早く停戦合意してほしい」

●産業機器、医療機器向け等機械部品

✓受注、販売… 受注、販売の前月比は、ともに業者により増減分かれるが、増加の声がやや多い。販売の先行きについても業者により増減分かれ、増加見込みと減少見込みの声が拮抗している。

✓景況感…… 当月、先行きとも業者により見方が分かれるが、当月は好転との声が多い。先行きは、好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

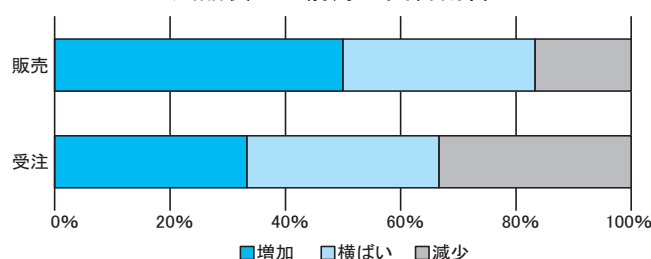
・「ホルムズ海峡封鎖の関係で油が入ってこない。入手もできない状況が続いており今年は機械の保守を見送る予定。今後長続きすれば、機械を動かせなくなる危機感がある」「今のところ入手できない資材などは無いが、価格は確実に上昇している。中東情勢が長引いた場合どうなるか心配」「中東情勢の影響で油やアルコールなど生産に使用している資材が入りづらくなっている。刃物や材料など、段階的に価格が上がってきている」「中国からタングステンが入ってこないことにより、それが必要な超硬が不足してきているようだ」「半導体は一部で増加の声も、車関係はいまいちの声。ナフサ関係の心配をする声が多い」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

✓売 上…… 菓子の前月比は業者により増減分かれ、先行きはやや減少～横ばい。食品全体では前月比増加の声が多いが、先行きは横ばい見込みの声が多い。

✓景況感… 当月、先行きともにやや悪化～横ばい。当月、先行きともに横ばいの声がやや多いが、好転の声は聞かれなかった。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

・「連休の恩恵で販売が好調だった」「ゴールデンウィーク前は忙しく、受注残高は前年比で増加。コンビニでの菓子販売に陰りがある様子」
・「ナフサ不足の影響で、包材価格が3割前後値上がり。供給不安もあり先行き不透明。あんこも大幅に値上がり」「5月から包装資材値上げ。秋口からの値上げを計画している」「中東情勢が不安定であるため、原材料の調達に困難な物資がある」「石油関連商品の不足、価格上昇の影響が徐々に出てきているが、先の様子が不透明で不安感しかない」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

✓売 上 … 前月比は横ばい、先行きは横ばい～増加。景況感は当月、先行きともに横ばいという。

[企業からのコメント]

・労働者、内職者の減少と賃金の上昇等の条件が重なり、利益確保に苦慮している。重ねて、原材料の高騰等の影響が今後の経営にマイナスとなる。将来に向けて良いアイデアが必要。
・冠婚葬祭の事業は人口減少、経費増大のため不況が続く。内職者の減少が続く、工賃の高騰等で各社とも見通しが悪化している。また原材料高がいつまで続くか見えずらい。

●上記以外の製造業

✓建築用金属製品… 販売は前月比は横ばい、前年比では減少。先行きは横ばい見込みという。景況感は当月、先行きともにやや悪化。

✓自動車向け部品… 販売は前月比やや増加、先行きは横ばいを見込む。景況感は、当月はやや好転、先行きは横ばいという。

✓印 刷…………… 販売は前月比、前年比ともに減少。原材料単価は上昇。

[企業からのコメント]

・関東の建物物件の着工件数がかなり減少しており、当社の仕事量も少ない状態が続いている。イラン戦争の影響で、塗料やシンナー、養生シート等、いろいろな製品の供給が止まったり遅れたりしており、今後どうなっていくかが分からない状況。
・先月が良かった反動か、売上、単価ともダウン。受注件数的には前年同月とほぼ同じだったが、大物の仕事が少なかった。
・「原油価格高騰や、もともとのインフレの影響もあり、全ての材料の仕入価格が高騰。仕事量が少ない中で値上げ交渉をせざるを得ないが、先行きが不透明で難しい環境が続いている」「中東の影響が、じわじわといろいろな資材に出てくる。梱包用のテープが発注数入荷できず、ホームセンターでの購入で対応（数量制限あり）。今後の資材の値上がりはある程度仕方ないが、入荷してこないのは死活問題となる」

建設業

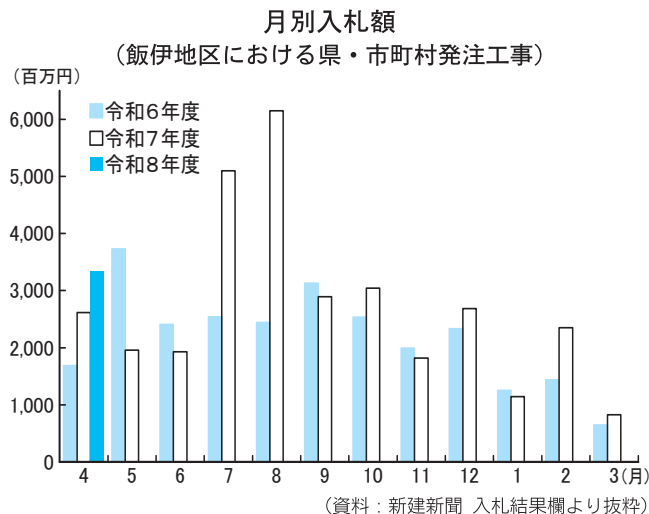
官公需

概況 4月の公共工事入札金額は前年比で27.9%増加、一昨年比では98.1%増加

✓公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、33.5億円（5月15日調査時点）。前年に比べ27.9%増加、2年前との比較では98.1%増加。

✓景況感…………… 当月は業者により見方が分かれるが、全体的に横ばいの声が多い。先行きは悪化～横ばいで、こちらも横ばいの声が多いが、好転見込みの声はない。

✓原材料価格…………… 当月は横ばい～上昇で、上昇との声が多い。先行きも同様で、上昇見込みのうちでも、「やや上昇」より「上昇」見込みの声が多い。



〔企業からのコメント〕

- ・「補正予算による公共工事の受注が進んでいる」「新年度工事の発注待ち」
- ・「ホルムズ海峡封鎖等の影響で、建設資材が不足、枯渇している。入荷の目途が立たないうえ、資材価格の値上げが発表されている」「燃料等が上昇しており、また不足の懸念がある」「石油関連製品の値上げが続く。また、今後の供給が安定するのか、大きな不安がある」
- ・「相変わらずの人手不足。地元を中途退職した人でも、ハローワークで探すほか、都会の人材センターに登録する人が増えている。仕方のないことだが採用に係る経費が増える」「人員は現在募集中。問い合わせはあるが、採用までには至らず」「技術者が不足しており、通年で募集中」

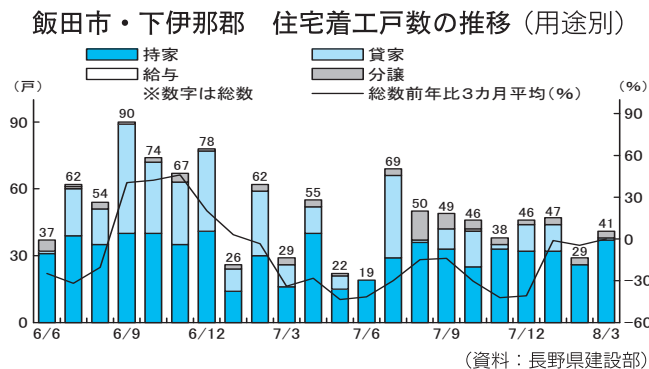
民需

概況 令和8年3月の住宅着工戸数は41戸で前年比41%増加。
持家が大幅に増加し、2か月ぶりの前年比プラス

✓住宅着工戸数… 当地区の3月の住宅着工戸数は41戸。前月比41%増、前年比でも41%増。持家の戸数は37件で前年（16件）から倍以上に増加。貸家は1件で前年（10件）から減少。分譲は3件で、前年（3件）と変わらず。

✓景況感…………… 当月はやや悪化～横ばい、先行きは悪化～横ばいで、好転との声はない。

✓原材料価格…………… 当月、先行きともに、やや上昇～上昇で、下降～横ばいの声はない。



〔企業からのコメント〕

- ・資材高騰で見積もりに苦慮している。また、今後資材不足で工事がストップするかもしれない。

建設資材等

概況 4月の生コンの売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。
骨材は前月比で横ばい～やや増加、前年比は業者により増減分かれる。

✓生コン … 売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。

✓骨 材 … 売上は前月比では横ばい～やや増加、前年比は業者により増減分かれる。

〔企業からのコメント〕

- ・4月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、発電関連工事、床固工事、倉庫新築工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の5割超。
- ・「4月なので公共事業の仕事はあまりなかった。今後の発注に期待。水力発電所の工事があったため、仕事はあった」「リニア南アルプストンネルへの生コン供給がそれなりに動いている」「今後、飯伊ではリニア工事に出荷しているかどうか、またリニア工事の進み具合で出荷量が増減すると思われる」
- ・徐々に価格改定が進み、利益確保状況が以前より改善されてきているように感じる。この先に期待。
- ・「現状は充足しているが、将来に向けて採用を拡大中」「ハローワークに求人募集中」

商業・サービス業

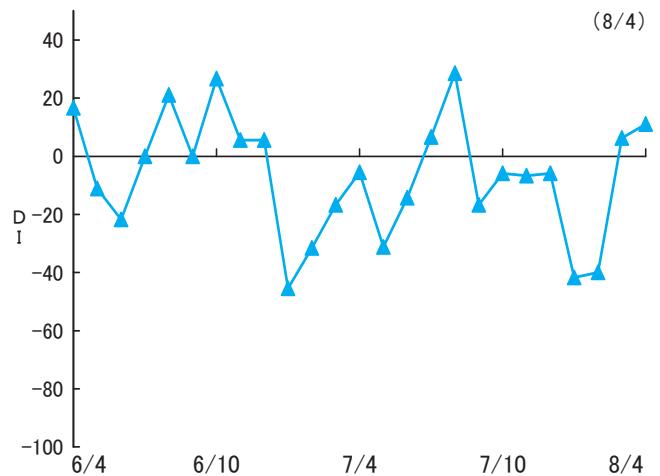
概況 景況DIは前月からやや改善。中東問題により先行きは悪化を見込む声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はプラス11.1で、前月から4.8ポイント上昇。

当月も、前月に続いて景況感は横ばいとの声が多く、その中で卸売業や飲食業、宿泊業の一部で景況感が好転したとの声があり、全体の指数は前月と比較して小幅にプラスとなった。春の観光シーズンを迎え、飲食業、宿泊業では前月比で売上増との声が多く聞かれた。

次月以降では、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業、運輸業など、ほぼすべての分野で景況感悪化を見込む声が聞かれる。ゴールデンウィークが終わって観光シーズンが一段落することに加え、中東問題による原材料価格、燃料価格の上昇が、経営への影響はもとより、幅広い物価上昇につながることで消費者の動向に悪影響を及ぼすのではないかと指摘も聞かれた。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。景況感はやや悪化～横ばい

☑売上 … 前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。

☑景況感 … 当月はやや悪化～横ばい。先行きもやや悪化～横ばい。

〔企業からのコメント〕

- ・青果物は安値が続いているものの、販売数は増加している。非食品は売上減少が続いている。
- ・4月に自治体の商品券配布の効果で、去年同期比より売上増加。ただ価格上昇傾向であり、今後は反動があるのでは。
- ・客数と客単価のどちらで売上を確保するかが悩みどころ。販促キャンペーンを実施している間の売上は良い。
- ・ビニールの袋や手袋など、買い占めが始まっている。

●卸売業 概況 売上の前月比は横ばい～増加。

景況感は、当月は横ばい～好転、先行きはやや悪化～横ばい

☑売上 … 前月比で食品は増加、建設資材はやや増加、青果は横ばい。

〔企業からのコメント〕

- ・野菜は、旬の山菜類は入荷減、価格も昨年を下回り、売上減少。タケノコは豊作で入荷大幅増となり、価格は大幅安。人参や玉ねぎなど取扱量、価格とも好調な品目もあれば、価格高であった昨年比で売上減少となった品目もあり、野菜全体では売上減となった。果実は、主力の苺は入荷減、価格はやや高い。雑柑橘類は販売好調で売上を伸ばした。輸入果実は加工品需要で売上増の品目もあったが、果実全体では苺の影響が大きく、売上減となった。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業は業者により増減分かれ、宿泊業はやや増加。

景況感は、飲食業は横ばい～好転、宿泊業は横ばい～やや好転

☑売上 … 前月比で飲食業は業者により増減分かれ、宿泊業はやや増加、運輸業はやや増加。

〔企業からのコメント〕

- ・「忙しい月だったが、売上はやや減少傾向。ただ1月からの累計では昨年比で若干の増加となっており、特に景気が悪くなったという感じはしない」「4月前半は静かで心配したが、中旬以降は宴会、店売り、テイクアウトとも良かった」「4月は団体の御予約の他にも、ランチの客数が増加した。昨年度よりも飲食の客足が増えてきている実感がある」
- ・「売上高は前月比、前年比とも増加したものの、予算は下回っている。花桃の報道が行われた影響か、客足は想定外に好調だったが、駐車場不足で異常な混雑が見受けられた。インフラ整備が課題となった」「花の時期を迎えて、お客様も増加。売上もやや増加となった。花桃は例年より早く終わったが、訪問客は例年より2割程度多かったと思われる」「売上はやや増加も、特に景気が好転している実感もない」
- ・タクシー売上は前月比やや増加、前年比は横ばい。前月および前年同月に比べて運行回数が減少しており、物価高騰による一般消費者の利用控えが影響していると考えられる。
- ・「原油の影響が出ており、包装関係、運賃、魚関係、調味料関係すべてが高くなっている。業務用のラップ等が欠品」「中東情勢による燃料価格への影響が懸念される」「ホルムズ海峡封鎖の影響による品不足や価格の値上げ等で、旅客の動きも悪いと感じている」「材料の値上げが予想されるが、価格転嫁はできない」

リニア中央新幹線についての定点観測アンケート(1)

～ リニア開業時期の目途が示されることが肝要 ～

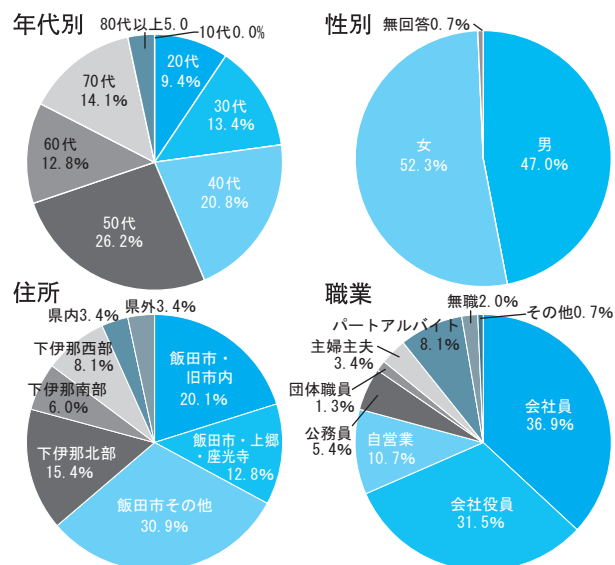
当研究所が定期的実施している「リニア中央新幹線についての意識調査」アンケートの令和7年度調査を本年3月に実施した。その結果を報告する。

1. 調査の方法と回答者の状況

調査は、『飯伊地区産業経済動向』（以下『動向』）調査先および発送先（読者）への調査票送付と、金庫営業店の店頭および営業担当による調査依頼・回収を行った。またオンラインによる回答も年々増加しており、総回答数は149となった。

お忙しい中、調査にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

回答者様の属性情報は右グラフの通りとなっている。今回は回答者数で、女性が男性を8名上回っている。



2. 「リニアに期待」は前年より増加

「Q リニア中央新幹線に期待していますか」を平成25年度調査からの推移とともに示す。「期待している」は80.7%で前年調査を0.1ポイント上回った。

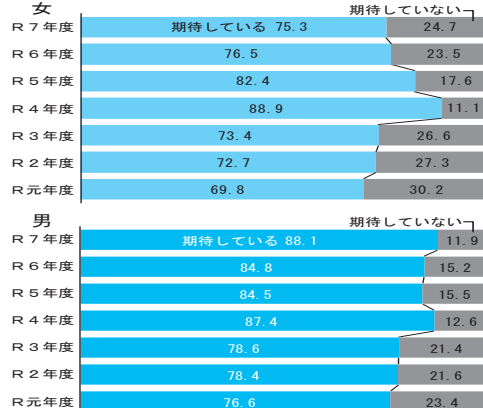
調査開始時から、調査年により若干の変動を経て近年は概ね80パーセント台前半で推移している。本年度調査は前年度調査を僅かながら上回ったことについて、静岡県で工事について合意が得られたことや当地域内でリニアおよび関連工事の進捗が見られたことなどがどう影響しているか。

回答を男女別にみると、男性の「期待する」がR4年度以降の落ち込みから回復傾向を示しているが、女性の方はそうっていない。

Q リニア中央新幹線に期待していますか (%)



リニアへの期待 男女別 (%)

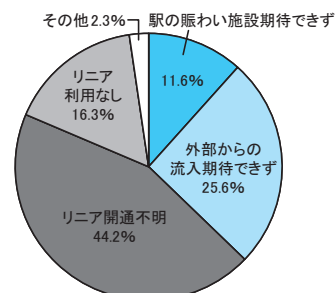


3. 「リニアに期待しない」理由は

「リニアに期待しない」という方々に期待しない理由を選択肢（複数回答可）によりお聞きしたところ、「リニアの開業時期が分からないから」44.2%、「外部からの人口や企業、資本の流入が期待できないから」25.6%、「リニアを利用しないから」16.3%、「駅や周辺の賑わい施設が期待できないから」11.6%、「その他」2.3%となった。「その他」では、「長野県（駅）は通過点になってしまうから」が挙げられていた。

「リニアの開業時期が分からないから」については後でもう一度触れたい。

Q リニア新幹線に期待しない理由



4. 「リニアに不安を感じる」は前年度より減少

次に「Qリニア中央新幹線に不安を感じますか」を、平成25年度調査からの推移とともにお示しするが、本年度は前年をやや下回る41.7%（右グラフ）であった。

平成25年度調査開始時には「不安を感じる」は60%台を示したが、その後徐々に減少し、近年では40%台前半で推移している。

「不安を感じる理由」（複数回答可）を同様の方式によりお聞きした令和5年度からの推移とともに右グラフに示す。今年度調査では、「リニアの開業時期が不明だから」38.5%、「騒音や振動など環境への影響」17.7%、「域外への人口流出が加速する」11.5%、「工事中の事故など安全への懸念」11.5%、「都会へ買い物に出かけるなど消費の域外流出」9.4%、「大手企業・資本の域内流入や競争激化」8.3%、「開業後の事故」2.1%、「その他」1.0%の順で、「その他」では「経年劣化による地盤沈下や陥没が心配」が挙げられていた。

5. 「リニアの開業時期不明について」の考察

「リニアに期待できない」、「不安を感じる」ともに出てくる「リニアの開通がいつになるかが分からないから」（以下「開業時期不明」）について令和4年度からの推移を改めて見てみる。

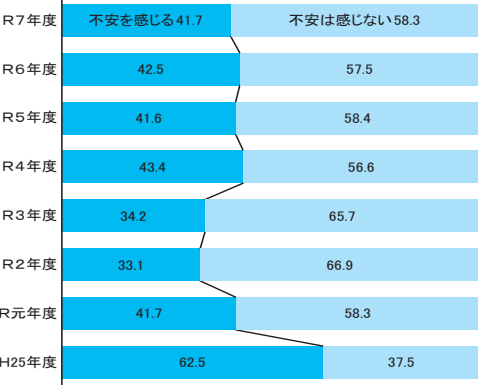
リニア新幹線に「期待しない」とする回答者のうち「開業時期不明」の比率は、令和4年度から徐々に増加しており、令和6年3月の「開通が10年以上延期」表明が象徴的に皆様の意識を形成していると考えられる。これに対し「リニアに不安を感じる」とする人の「開業時期不明」は4年度から5年度のところで大きく増加したが、その後は60%台前半で推移している。

「リニアに期待できない理由」（複数回答）に占める「開業時期不明」はこの4年間ほぼ40パーセント前半で推移しているのに対し、「リニアに不安を感じる理由」（同）に占める「開業時期不明」は徐々に割合を高めている。

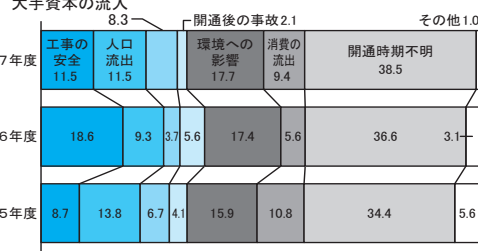
以上をまとめると、「期待しない」人の中で徐々に「開業時期不明」が増えているが、それは他の懸念とは相対的なもの（他の懸念も同様に抱えている）であり、特に懸念が外部環境変化に関するものだけに懸念の解消は簡単ではない。

他方で「不安を感じる」人の中では「開業時期不明」以外の懸念は徐々に薄らいでいる、もしくは解消しつつあるとも見られる。これには工事そのものに関わる懸念などに、関係の方々の取り組みや対応が功を奏しているのでは、というのが現状における仮説となるがいかがであらうか。いずれにしろ「リニア開業時期」の目途が示されることが地域の意識形成に大きなウェイトを占めるものと考ええる。

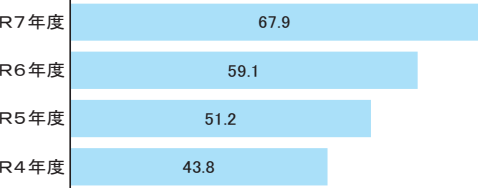
Q リニア新幹線に不安を感じますか （%）



Q「不安を感じる理由」の推移 （%）



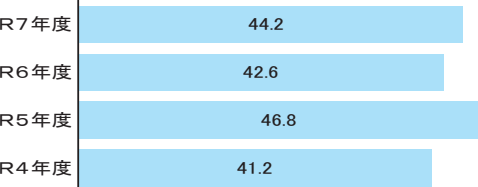
Q「リニアに期待しない」「不安を感じる」と「開業時期不明」リニアに期待しないとする人のうち「リニア開業時期不明」を挙げている割合 （%）



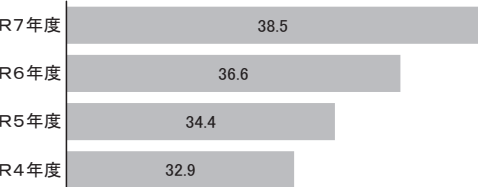
不安を感じるとする人のうち「リニア開業時期不明」を挙げている割合 （%）



リニアに期待できない理由のうち「リニア開業時期不明」の割合 （%）



リニアに不安を感じる理由のうち「リニア開業時期不明」の割合 （%）



三遠南信地域における、大学と連携した取り組み事例

4年制大学がない当地域でも、学輪IIDAや、信州大学のグリーン水素実証実験、航空機システム共同研究講座、ランドスケープ・プランニング共同研究講座など、大学と連携した取り組みはいくつか見られる。

今回は、(一財)しんきん経済研究所 主席研究員 森 達也氏による、遠州地域における大学連携の取組に関するレポートをご紹介します。

遠州地域の産学連携

1. 産学連携は、地域の存亡をかけた産業構造の転換装置

遠州地域は、かつて織機から自動車に主要産業が移行した際も、教育機関との密接な連携が、地域の技術基盤を支えた。

今日、地域の基幹産業である自動車産業が、CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)という百年に一度の変革期を迎え、この地域は再び、産学連携を通じた第二の創業期ともいえるべき課題に直面している。

また、浜松市は「光の世紀」をリードする都市として、光・電子技術を基盤とした新産業創出を、国家戦略に沿って推進してきた。近隣都市である磐田市、袋井市、湖西市なども、それぞれの地域資源を活かした独自の産学連携モデルを構築している。これらの都市に共通するのは、「単独の企業努力では克服困難なDXやCNといった課題に対し、大学の先端知と自治体の政策資源を統合して解決を図る姿勢」である。

遠州地域では、地域産業が直面する課題を、産学が連携して克服しようとする姿勢が顕著であり、現在の産学連携は、単なる研究成果の技術移転にとどまらず、「地域の存亡をかけた産業構造の転換装置」として機能している。

(1) 「はままつ医工連携拠点」～「光・電子」と「医療」の連携～

これは、浜松医科大学、光産業創生大学院大学、静岡大学と静岡県、浜松市、浜松地域イノベーション推進機構、浜松商工会議所がコンソーシアムの形で連携し、医療現場のニーズを起点とした製品開発を支援するもので、地域の強みである光・電子技術や精密加工技術を、浜松医科大学が有する臨床ニーズと結びつけることで、高付加価値な医療機器を創出する取り組みである。

●特徴

この拠点の最大の特徴は、単なる技術マッチングにとどまらず、医師が直接ニーズを語る「情報交換会」や、企業が実際の治療現場を観察できる「臨床現場見学会」を定期的に実施している点にある。また、研究開発のフェーズでは、JST(科学技術振興機構)から譲渡された高度な研究設備が活用されており、令和5年度のデータによれば、浜松医科大学のPET/CT装置が1,365回、浜松工業技術支援センターのピコ秒レーザー加工システムは52回利用され、高額な設備投資が困難な中小企業の参入障壁を大幅に下げている。

●医工連携による製品化

医工連携の成果は、具体的な製品として市場に送り出されている。特に「スタートアップ支援事業」は、製品化の最終段階にあるプロジェクトに対し、伴走型の支援を提供している。また、これらの事例において支援を受けた開発案件の約30%が、その後さらに別の公的資金(国庫補助金等)の獲得に成功しており、地域の産学連携支援が「呼び水」となり、より大規模な研究開発への道筋ともなっている。

(2) A-Sap

A-Sapは、企業の課題を、産学連携によって、長期的なスパンではなくスピード解決(原則6か月以内)することに特化したスキームである。

浜松市の外部団体である(公財)浜松地域イノベーション推進機構が主管しており、半年ごとの募集で現在22期が終了、2026年度から23期が始まる予定で、これまで100件を超えるプロジェクトが実施されている。

●A-Sapの支援内容

- ・企業の課題と大学教員とのマッチング
- ・研究開発にかかる委託費の機構の一部負担(100万円以内)
- ・地元金融機関による伴走支援(静岡銀行、浜松いわた信用金庫等)

● 地元大学の関与状況

地元大学	主な連携業種	主な課題・テーマ
静岡大学	輸送用機器、産業機械、電子部品	センサー開発、画像処理、熱解析、AI活用
浜松医科大学	医療器具、ヘルスケア、食品	人体への影響測定、衛生管理、介護ロボット
光産業創成大学院大学	光学機器、精密加工、農業	レーザー加工、植物工場、非破壊検査
静岡理工科大学	電気・電子、制御機器	基盤設計、無線通信、モーター制御

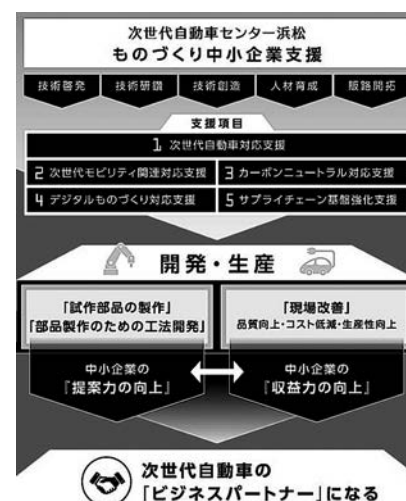
(3) 次世代自動車センター浜松

輸送機器産業の変革において、最も大きな影響を受けるのは地域の中小サプライヤーである。静岡県と浜松地域イノベーション推進機構は「次世代自動車センター浜松」を設置し、これらの企業がEV化や自動運転といった新潮流に適應するための産学官連携を主導している。

次世代自動車センターは、企業間連携のハブとして機能しており、以下の4つのワーキンググループを通じて、具体的な実証実験や技術開発を後押ししている。

- ・電動化・カーボンニュートラル…完成車メーカーと部品メーカーの連携による脱炭素化技術を開発する。
- ・3Dデジタル技術…デジタル設計技術の普及と、設計・検図業務へのAI導入を支援する。
- ・積層造形技術…3Dプリンタを活用した新工法の開発支援を行う。
- ・次世代モビリティ…新たな移動手段の創出を進める。

具体的な成果事例として、株式会社スズキ部品製造による「設計・検図補助、承認業務AIサポートシステム」や、ヤマハモーターエンジニアリング株式会社による「潜在空間を活用した3D形状の生成技術」などが、令和8年2月の成果発表会で公開される予定である。



2. 大学とグローバル企業との連携

静岡県西部では、スズキ、ヤマハ発動機、ヤマハといったグローバル企業と静岡大学、浜松医科大学との連携は、単発のプロジェクトを超えた組織的な共同研究へと深化している。

中でも静岡大学では、学内に特定の企業名を冠した「共同研究講座」や「共同研究部門」を設置し、長期的かつ組織的な研究体制を構築している。

これにより、企業側は大学の基礎研究能力を直接活用でき、大学側は社会課題に根ざした研究と教育の機会を得ている。

① スズキ次世代モビリティ共同研究講座

カーボンニュートラル社会に向けた電動化車両の効率向上や、自動運転におけるセンサー融合アルゴリズムの研究を推進している。単なる技術開発だけでなく、自動車工学やDXに関する講義を学生向けに実施し、次世代技術者の育成も兼ねている。

② ヤマハ次世代オーディオ共同研究講座

物理モデルとAI技術を統合した次世代の音響信号処理アルゴリズムを研究している。ヤマハ株式会社との連携により、臨場感の高いオーディオ体験という感性領域の社会実装を目指している。

③ 浜松ホトニクス光計測・バイオ医学共同研究講座

高感度光検出技術を用いた生体分子の可視化や、非侵襲的ながん診断支援システムの構築など、光技術の医学・バイオ分野への応用を専門としている。

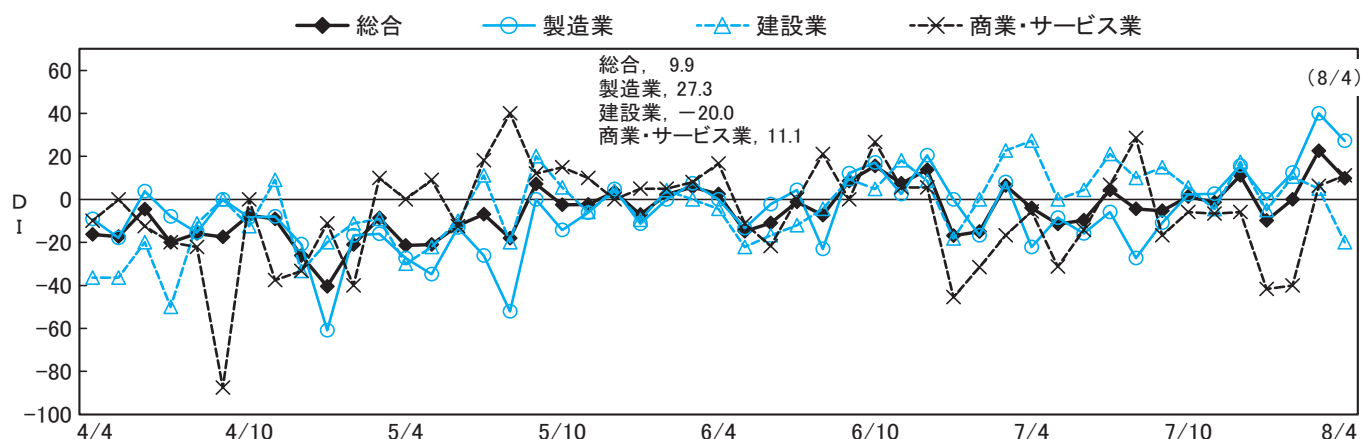
3. 終わりに

この他にも、産学連携における近年の活動実績は多くのものがあるが、紙幅の都合上割愛する（ご覧になりたい方は、(公社)東三河地域研究センターのホームページをご覧ください。）

産学連携には、連携の効果の計測方法や、文系大学の更なる活用の方法がないかといった課題はあるものの、地域の企業の存続に欠かせないことは疑いない。

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	5 件	(前月 9 件)	(前年同月 8 件)	(前々年同月 5 件)	(令和元年同月 7 件)
	飯 伊	0 件	(前月 1 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 1 件)	(令和元年同月 1 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (3月)		41 戸	41.4 %	41.4 %	△ 35.9 %	△ 12.8 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (3月)		1.21 倍	(前月 1.31 倍)	(前年同月 1.38 倍)	(前々年同月 1.33 倍)	(令和元年同月 1.31 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	2,208 台	△ 19.3 %	13.5 %	18.0 %	△ 3.6 %
	中古車	852 台	△ 7.3 %	△ 1.0 %	11.2 %	△ 3.3 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)	新 車	3,153 台	△ 38.6 %	△ 4.7 %	14.1 %	△ 16.8 %
	中古車	1,768 台	56.6 %	△ 1.1 %	△ 0.2 %	2.6 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	94,244 台	△ 3.6 %	△ 0.7 %	0.3 %	△ 16.1 %
	出	93,175 台	△ 4.9 %	△ 0.9 %	△ 0.3 %	△ 18.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	53,170 台	△ 2.6 %	0.2 %	0.4 %	△ 29.1 %
	出	50,396 台	△ 4.5 %	0.9 %	△ 0.5 %	△ 29.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	24,891 台	116.3 %	12.4 %	100.0 %	18.4 %
	出	31,120 台	168.0 %	11.1 %	136.9 %	28.5 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	55,595 台	23.6 %	2.4 %	10.6 %	25.5 %
	出	56,694 台	29.1 %	3.0 %	8.4 %	26.2 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	41,131 台	△ 13.1 %	△ 3.2 %	2.3 %	— %
	出	42,372 台	△ 12.9 %	△ 2.2 %	4.7 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		95 件	△ 56.0 %	△ 24.6 %	△ 6.9 %	△ 26.4 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2 件	(前月 4 件)	(前年同月 17 件)	(前々年同月 8 件)	(令和元年同月 1 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	20,397 人	△ 17.9 %	1.2 %	2.6 %	△ 23.0 %
	飯田～名古屋	13,673 人	△ 15.5 %	2.2 %	5.5 %	△ 26.7 %
	飯田～長野	4,942 人	2.4 %	11.0 %	21.0 %	△ 47.2 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,445 人	△ 13.1 %	1.7 %	1.8 %	△ 20.0 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,122 人	△ 6.2 %	9.7 %	10.1 %	△ 5.9 %
	右回り	3,071 人	△ 0.8 %	△ 0.8 %	4.4 %	△ 8.1 %